

**【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】**

養成する人材像やディプロマ・ポリシーの修得を目指し、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、保健医療学部のアドミッション・ポリシーでは以下の人材を求める。

1. 保健医療福祉に関わる専門的知識・技術・態度を学ぶために必要な基礎学力を有する人
2. 適切な対人関係能力の発展に必要な基礎的コミュニケーション能力を有する人
3. 知的好奇心を持ち、探究心と創造力で自ら学ぶ意欲を持つ人
4. 基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配ることができる人
5. 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
6. 自己の強みや弱みを客観視でき、成長に向けて努力できる人

**Ⅲ-2 看護学科****1. 概要****1) 教育目的**

本学の建学の精神である「共生社会の実現」を目指し、社会に貢献する看護専門職業人の育成を目的とする。

**2) 教育目標****【教育目標—養成する人材像】**

看護学科の教育目的を達成するための教育目標（養成する人材像）は以下のとおりである。

1. 生命の尊厳や人権を守り、人々の多様な価値観や意思を尊重できる人材の育成
2. 全人的理解を基盤とした援助的人間関係を形成できる人材の育成
3. 看護学に関する専門的知識と技術を修得し、看護の実践ができる人材の育成
4. 看護専門職としての倫理的な態度を身につけ、研鑽し続けることができる人材の育成
5. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携・協働ができる人材の育成
6. 科学的思考と問題解決能力、主体的学修能力で自己成長できる人材の育成

**3) 学科方針****【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）：DP】**

本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、看護学科における卒業時の到達目標であるディプロマ・ポリシーは、以下の能力を獲得することとする。

1. 人権や多様な個性を尊重し、倫理的態度を持って共生社会の実現に寄与する能力
2. 看護学に関する高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、看護の向上に寄与する能力
3. 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働する能力
4. 科学的根拠に基づき、対象者に必要な看護を提供する能力
5. 論理的思考をもって主体的に学修し、看護学を発展させる能力

### 【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）：CP】

看護学科のディプロマ・ポリシーを具現化するために、講義、演習、実習等を組み合わせて科目に適した形態で授業を編成する。

1. 人権や多様な個性を尊重し、倫理的態度を持って共生社会の実現に寄与する能力を育成するために、「科学的思考の基礎」、「人間と生活及び社会の理解」、「語学」について学ぶ基礎教育科目を配置する
2. 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働し、社会に貢献できる人材を育成するために、「社会と健康支援」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
3. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「健康と疾病」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
4. 高度で専門的な看護の実践能力の育成のため、「看護の基本」、「対象の特徴と看護実践」、「看護の統合」について学ぶ専門教育科目を配置する
5. 将来の看護専門職業人としての自覚を持ち、豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

### 【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】

養成する人材像やディプロマ・ポリシーの修得を目指し、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、看護学科のアドミッション・ポリシーでは以下の人材を求める。

1. 看護学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、看護学の学修に意欲と熱意を持つ人
2. 人に関心を持ち、あたたかい心で人とコミュニケーションができる人
3. 知的好奇心を持ち、探究心と創造力で自ら学ぶ意欲を持つ人
4. 基本的な生活態度が身につけており、心身の健康に気を配ることができる人
5. 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
6. 自己の強みや弱みを客観視でき、成長に向けて努力できる人

## 4) 教育課程

### (1) 教育課程の特色

#### ① 保健医療学部 5 学科共通

各教育課程をより効果的に進行するために、入学前に高大接続期間を設けリメディアル教育の一環として「初年次教育」、「学力確認テスト」さらに、入学後「スタートアップ講座」を配置しています。

#### ② 看護学科の特色

看護学は、すべての発達段階、多様な健康状態にある個人、家族、集団、地域の固有の健康問題や健康問題に対する人間の反応を探求し、健康の維持・増進に向けて、人との相互作用を基盤とした援助的専門的アプローチを探求する学問です。本学科における看護学教育は、ヒューマンケアの理念に基づいた専門職業人を育成することを目指しています。そのため、教育課程の特色は、看護の対象である人間理解を基盤に、看護学における知識・技術・態度を学ぶために、対象である人を「個人→集団」、さらにライフサイクル別に「母性→小児→成人→老年、また精神、地域・在宅」、健康レベルを「健康→健康障害」、看護の場を「病院・施設→在宅」と段階的に科目編成しています。

## (2) 教育課程の編成

教育課程編成の基本的な考え方は、看護学を体系づける「人間」「環境」「健康」「看護」の主要な概念とその関係性を枠組にしています。つまり、人間は、環境と相互作用しながら生活しており、その相互作用により健康状態は変化します。看護は、その人がその人らしく生活を送るために、その人にとって最適な健康状態になるように働きかけます。この枠組に基づいて「基礎教育科目」「専門基礎教育科目」「専門教育科目」の3領域に編成しています。

「基礎教育科目」では、多様な視点から物事を理解し、本質を探究していく姿勢と自らを省察し生涯にわたり修養する力を体得するとともに、看護の対象である「人間」を理解するために必要な知識を学びます。「専門基礎教育科目」では、看護学に不可欠な「健康」「環境」および保健医療福祉の基礎知識を学びます。「専門教育科目」では、看護学の専門的な知識・技術を学び、臨地実習を通して態度を養い「看護」として統合していきます。

「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」、この3領域を構成する各教科目は、体系的かつ系統的に配置し、それぞれの科目により、講義、演習、実習の形態で学修します。授業の進め方は、前期、後期の2学期制です。

それぞれの授業科目、分野の詳細については、シラバスを参照してください。

## (3) 教育課程の進行に関する基本的な考え方

### ① 科目配置

教育課程の進行は、「基礎教育科目」をベースに「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」と学んでいきますが、相互に関連して学びを深めていくことを目的に配置しています。

看護学は、「人間」を対象に「健康」に焦点をあてた学問です。そのため、人間理解に必要な幅広い知性と豊かな感性を育て、学生自身の人間性を育む「基礎教育科目」は低学年に配置しています。『科学的思考の基礎』、『人間と生活及び社会の理解』、『語学』の3つの分野から、人間に関する学際的な学問領域の教科目を設定しています。

専門職業人を育成するための教科目は、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」に設定しています。「専門基礎教育科目」は、『健康と疾病』、『社会と健康支援』の2つ分野から構成され、看護学を学修する基礎的知識を学びます。「専門教育科目」は、『看護の基本』、『対象の特徴と看護実践』、『看護の統合』の3つの分野から構成され、看護師として必要な専門的知識・技術・態度を修得します。学年進むにしたがい「専門教育科目」が増えていきますが、『看護の基本』での学修を基盤に関連付けながら、学びを積み重ねていきましょう。

### ② 学年の特徴

1年次では、「基礎教育科目」を中心に、人間理解の基礎となる学問的知識を得るとともに、学生個人の価値観や人間観を育て、科学的思考力や大学生として主体的・自律的に学ぶ姿勢を身につけることを目標としています。同じく、1年次から「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」を配置しているのは、「専門教育科目」への導入と「基礎教育科目」と「専門教育科目」の関連性を確認しながら学ぶことで、今後の学修への関心を高め、明確な動機付けとなることを目的としているからです。

2年次では、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」数が増え、「基礎教育科目」で学んだ知識を関連させ、活用しながら、「専門教育科目」の基礎を修得することを目指しています。

3年次では、「専門教育科目」の講義・演習・実習をとおして、専門的知識を深めるとともに自身の看護観を構築しつつ、最終学年における統合化に向けて準備することを目的としています。

4年次では、3年次までの学修に加え、さらなる実習で看護の領域の広がりを学ぶとともに、卒業時の到達度と今後の目標や自己課題を明らかにすることを目的としています。

### ③ 看護学実習

看護学は実践の科学であり、「看護学実習」は、看護学教育の中心的な位置づけにあります。

「看護学実習」では、看護職としての倫理的態度を基盤に、既修の知識と技術を活用して看護の実践を学びます。また、看護学実習の体験から、看護の現象を意味付け、看護の知として学ぶ学修でもあります。いずれも当該領域の講義・演習を学修したのちに実習を配置しています。

### ④ 看護ゼミナール

4年次に学生が主体となって、学修のまとめをする授業科目として「看護ゼミナール」を配置しています。教員の指導の下、学生が各学年の学修のまとめをとおして、学修の達成度と課題を明確にするとともに、学生相互に学修し合うことを目的としています。学生一人ひとりの成長を教員が丁寧に指導していきます。

2025年度カリキュラムの構成と年次進行はカリキュラムマップ（42ページ）を参照してください。

## 2. 履修について

履修とは、「必修・選択科目を確認のうえ単位修得を希望する科目について登録し、授業・試験を受けて合格し、単位を修得する」という過程を意味します。履修登録にあたり、『履修の手引き』・『シラバス』・『授業時間割』を熟読のうえ、履修計画を立ててください。1年間の履修計画を立て、前期の履修登録期間中に後期分の履修登録も行ってください。

### 1) 履修の上限単位（CAP制）

本学では、1単位の単位修得に必要な学修時間を確保し、学修の質の向上と学修の効率化をはかるために、学年ごとに履修登録科目数の上限制度であるCAP（キャップ）制を導入しています。各学年が履修できる1年間の総単位数に上限を設定することで、各学科のディプロマ・ポリシーを達成するための学修を計画的に進められるよう適切に授業科目を履修できることを目的とした制度です。

（2025年度入学生）

学 年	1年間の上限
1年	54単位
2年	46単位
3年	27単位
4年	17単位

### 2) 履修登録スケジュール

履修登録および履修登録変更のスケジュールは該当年度の「履修の手引き」等で確認してください。

### 3) 履修登録変更期間について

履修登録内容を誤った場合や、授業内容が自分の学修したい内容と異なっていた場合、もしくは履修計画を見直したい場合は、定められた期間で履修登録変更の手続きを行ってください。やむを得ない事情による所定の期間外の履修登録および変更は、教務委員長の許可が必要になります。

履修登録変更の手続きについての詳細は該当年度の「履修の手引き」およびユニバーサルパスポートで周知します。

### 4) 履修上の注意

卒業に必要な科目履修、単位の管理は、学生自身の自己責任となります。「履修の手引き」とシラバス等を活用して、履修方法、単位認定、試験等にかかわる事項を十分に確認しておきましょう。

1 年次 4 月の段階で 4 年間の履修計画を立案し、1 年 1 年の学修の積み重ねによって、堅実に単位を修得していきましょう。

## 3. 単位修得について

### 1) 卒業要件総単位数（2025 年度入学生）

本学を卒業するためには、下記の表が示す単位数の修得が必要となります。

科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
必修単位	12 単位	24 単位	77 単位	113 単位
選択単位	8 単位以上	3 単位以上	1 単位以上	12 単位以上
小 計	20 単位以上	27 単位以上	78 単位以上	125 単位以上

### 2) 算定基準

大学で履修する授業科目には、それぞれ「単位」という一定の基準が定められています。1 単位とは、学生が 1 科目について行う 45 時間（2 単位の場合は 90 時間）の学修活動を意味し、その学修活動とは授業と事前・事後学修からなります。授業科目の 1 単位あたりの時間数は、授業形態に応じた教育効果や事前・事後学修等を考慮したものです。

〈1 単位あたりの授業単位数〉

講義・演習	15 時間～30 時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って 1 単位
実験・実習・実技	30 時間～45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って 1 単位
1 つの授業科目の中に講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2 つ以上を併用	1 つの授業科目に講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2 つ以上の方法の併用により行う授業については、組み合わせに応じ、30 時間～45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業を 1 単位としています。

### 3) 単位の「修得」について

単位の「修得」は、「履修登録」した科目の規定回数の 3 分の 2 以上を出席し、定期試験を受験し合格することで、その科目の単位を修得することができます。

ただし、科目によっては、試験の成績にレポート（課題）の評価などが加味され、総合的に評価されます。

## 4. 履修科目について

必ず履修しなければならない「必修科目」と各区分の中から指定された単位数以上を自由に選択できる「選択科目」を履修します。

### 1) 基礎教育科目（必修科目12単位、選択科目21単位から20単位以上選択）

「科学的思考の基礎」：必修科目6単位、選択科目5単位から8単位以上選択

大学での学修に不可欠なスタディスキルを学ぶとともに、学問的探究心と科学的思考力の基礎を養います。

「人間と生活及び社会の理解」：必修科目3単位、選択科目12単位から7単位以上選択

多様な視点から人間や物事を理解し、本質を探究していく学際的な学問領域について学び、価値観や人間観を育て、主体的・自律的に学ぶ姿勢を身につけます。

「語学」：必修科目3単位、選択科目4単位から5単位以上を選択

語学学修をとおして、他者との交流におけるコミュニケーションに必要なスキルを学びます。

### 2) 専門基礎教育科目（必修科目24単位、選択科目5単位から27単位以上を選択）

「健康と疾病」：必修科目18単位

看護学を学ぶ上で必修の基礎的知識である人体の構造・機能、健康と疾病の成り立ち、および回復の促進に関する知識を学修します。

「社会と健康支援」：必修科目6単位、選択科目5単位から9単位以上を選択

保健医療福祉チームにおける看護職の役割および多職種との役割を学修し、多職種と連携・協働しながら多様な場で生活する人々へ看護を提供する基礎的能力を養います。

### 3) 専門教育科目（必修科目77単位、選択科目1単位以上を選択）

「看護の基本」：必修科目16単位

看護学の基礎となる知識、技術、態度を中心に、看護実践の具体的な展開に必要な基本的な学修をします。

「対象の特徴と看護実践」：必修科目48単位

看護の対象を小児、母性、成人、老年の各発達段階および精神疾患、地域・在宅の療養者の特徴から理解し、対象が必要とする看護実践の知識・技術・態度を学修します。各看護学概論では、各々の対象理解と目的および方法に関する理論を学修します。「概論」の知識を基盤に各看護援助論Ⅰでは、各々の対象者の特徴および健康障害、疾患に対応した看護の実践方法を学修します。さらに、各看護援助論Ⅱは、演習科目として「概論」、「援助論Ⅰ」の学修を基盤に看護実践（臨地実習）へ直結する学修をします。学内での「概論」「援助論Ⅰ」「援助論Ⅱ」の学修の統合の場として「臨地実習」を位置づけています。「臨地実習」は、実践現場において学生個々が対象者と向き合い、対象者の健康状態に対応した看護実践をとおして、体験的に学修します。

「看護の統合」：必修科目13単位、選択科目5単位から14単位以上を選択

社会のニーズにより対応した看護職者の育成を目的に科目を配置するとともに、主体的な学修により今後の学修課題を明確にする科目を配置しています。

## 5. 卒業要件について

卒業に必要な履修単位は以下の通りです。

科目区分	2025年度カリキュラム		
	必修科目	選択科目	
基礎教育科目	科学的思考の基礎	6単位	2単位以上
	人間と生活及び社会の理解	3単位	4単位以上
	語学	3単位	2単位以上
専門基礎教育科目	健康と疾病	18単位	-
	社会と健康支援	6単位	3単位以上
専門教育科目	看護の基本	16単位	-
	対象の特徴と看護実践	48単位	-
	看護の統合	13単位	1単位以上

## 6. 先修要件

臨地実習に関わる科目を履修するためには、履修規程第19条の進級要件を満たし、かつ次に定める先修要件を満たしていなければならない。

〈看護学科〉2025年度入学生

臨地実習科目	先 修 要 件
初期実習	なし
基礎看護学実習Ⅰ	看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ・基礎看護技術論Ⅱ・基礎看護技術論Ⅲの単位を修得していること
基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護技術論Ⅳ・基礎看護技術論Ⅴ、基礎看護学実習Ⅰの単位を修得していること
成人看護学実習	基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ、成人看護援助論Ⅱの単位を修得していること
老年看護学実習	基礎看護学実習Ⅱ、老年看護学概論、老年看護援助論Ⅰ、老年看護援助論Ⅱの単位を修得していること
精神看護学実習	基礎看護学実習Ⅱ、精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ、精神看護援助論Ⅱの単位を修得していること
母性・小児看護学実習	小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ、小児看護援助論Ⅱ、母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱの単位を修得していること
地域・在宅看護学実習	地域・在宅看護学概論、地域・在宅看護援助論Ⅰ、地域・在宅看護援助論Ⅱの単位を修得していること
統合実習	3年次後期までの専門基礎教育科目及び専門教育科目の必修単位をすべて修得していること

〈履修科目一覧 看護学科 (2025年度カリキュラム)〉

科目区分	1年		2年		3年		4年		卒業認定に必要な単位数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	6単位	必修を含む 8単位以上
科学的思考の基礎	必修	スタートアップ講座[1] 生命科学 [2] 情報科学I [1] 情報科学II [1]	統計学 [1]							6単位
	選択	数学 [1] 環境科学 [1] 生活と運動 [1]	生活科学 [1] 健康とスポーツ [1]							2単位以上
人間と生活及び社会の理解	必修	心理学 [1] 倫理学 [1] 論理学 [1]								3単位
	選択	人間関係の科学 [1] 北海道史 [1]	発達心理学 [1] 生命倫理 [1] 文化人類学 [1]	法学 [1] 教育学 [1] ポランティア論 [1]	医療と哲学 [1] 医療と宗教 [1] 医療と社会 [1] 音楽 [1]					4単位以上
語学	必修	日本語表現 [1] 英語I [1]	英語II [1]							3単位
	選択		中国語 [1]	英語III [1] 韓国語 [1]		英語IV [1]				2単位以上
健康と疾病	必修	総合医療論 [1] 形態機能学I(消化器・血液系) [2] 形態機能学II(循環・代謝系) [2] 形態機能学III(運動・神経系) [2] 臨床微生物学 [1]	形態機能学IV(人体解剖学) [2] 臨床栄養学 [1] 感染症概論 [1]	病態病理学 [1] 疾病論I(循環器・呼吸器系) [1] 疾病論II(消化器・血液系) [1] 疾病論III(運動・神経系) [1] 疾病論IV(内分泌器・感覚器系) [1]	臨床薬理学 [1] 疾病論I(消化器・血液系) [1]					18単位
	必修		公衆衛生学 [1] 保健医療福祉行政論 [1]	保健医療統計 [1] 関係法規 [1]	健康教育論 [1] チーム医療論 [1]					6単位
社会と健康支援	必修		コミュニケーション論 [1]	心の健康科学 [1]	社会福祉学 [1]	リハビリテーション概論 [1]				3単位以上
	選択									3単位以上

科目区分	1年		2年		3年		4年		卒業認定に必要な単位数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
看護の基本 必修	初期実習 [1] 看護学概論 [2] 基礎看護技術論 I [2] 基礎看護技術論 II [2]	基礎看護技術論 III [2]	基礎看護技術論 IV [2] 基礎看護技術論 V [2] 基礎看護学実習 I [1]	基礎看護学実習 II [2]					16単位	
		成人看護学概論 [2] 老年看護学概論 [2] 地域在宅看護学概論 [2]	成人看護援助論 I [2] 老年看護援助論 I [2] 小児看護援助論 I [2] 母性看護学概論 [2] 精神看護学概論 [2] 精神看護学概論 [2]	老年看護援助論 II [1] 小児看護援助論 I [2] 母性看護援助論 I [2] 精神看護援助論 I [2] 地域在宅看護援助論 I [2]	成人看護援助論 II [2] 小児看護援助論 II [1] 母性看護援助論 II [1] 精神看護援助論 II [1] 地域在宅看護援助論 II [2]	成人看護学実習 [5] 老年看護学実習 [3] 精神看護学実習 [2]	母性・小児看護学実習 [4] 地域在宅看護学実習 [2]			48単位
対象の特徴と看護実践 必修		災害看護学 I [1]	医療安全 [1]		看護研究 [1] 看護管理 [1] 臨床看護技術演習 [2]		総合実習 [3] 看護研究ゼミナール II [1] 看護倫理学 [1]		13単位	必修を含む 14単位 以上
					看護研究ゼミナール I [1] 感染管理 [1]	看護ゼミナール [1] 国際看護学 [1]	看護教育 [1] 災害看護学 II [1] エント・オブ・ライフケア [1]	1単位以上		
必修科目	42単位		35単位	24単位	12単位	113単位				
選択科目	12単位		11単位	3単位	5単位	31単位				
計	54単位		46単位	27単位	17単位	144単位				
CAP制(履修上限)	54単位		46単位	27単位	17単位	144単位				

○卒業要件：125単位以上 必修113単位、選択12単位以上

○ [ ] 内は、単位数

○太字は臨地実習科目（1単位45時間）

〈カリキュラム・マップ 看護学科 (2025年度カリキュラム)〉

DP 区分	基礎教育科目		専門基礎教育科目		専門教育科目		能力
	科学的思考の基礎 スタートアップ講座(必1) 生命科学(必2) 数学(選1) 環境科学(選1) 生活科学(選1) 統計学(必1) 情報科学I(必1) 情報科学II(必1) 生活と運動(選1) 健康とスポーツ(選1)	人間と生活及び社会の理解 心理学(必1) 発達心理学(選1) 倫理学(必1) 生命倫理(選1) 論理学(必1) 人間関係の科学(選1) 文化人類学(選1) 北海道史(選1)	社会と健康支援 公衆衛生学(必1) 保健医療福祉行政論(必1) コミュニケーション論(選1)	健康と疾病 総合医薬論(必1) 形態機能学I(消化器・血管系)(必2) 形態機能学II(循環・代謝系)(必2) 形態機能学III(運動・神経系)(必2) 形態機能学IV(人体解剖実習)(必2) 臨床微生物学(必1) 臨床栄養学(必1) 感染症概論(必1)	看護の基本 初期実習(必1) 看護学概論(必2) 看護学概論(必2) 基礎看護技術論I(必2) 基礎看護技術論II(必2) 基礎看護技術論III(必2)	対象の特徴と看護実践 成人看護学概論(必2) 老年看護学概論(必2) 地域・在宅看護学概論(必2)	
1 年次	DPL	人権や多様な個性を尊重し、倫理的態度を持って共生社会の実現に寄与する能力					DP4. 科学的根拠に基づき、対象者に必要な看護を提供する能力
	DP3	対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働する能力					DP5. 論理的思考をもって主体的に学修し、看護学を発展させる能力
	DP2	看護学に関する高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、看護の向上に寄与する能力					
	英語Ⅲ(選1)	英語Ⅰ(必1)	英語Ⅱ(必1)	中国語(選1)	病態病理学(必1)	基礎看護技術論Ⅳ(必2)	成人看護援助論Ⅰ(必2)
	韓国語(選1)	日本語表現(必1)	英語Ⅰ(必1)	英語Ⅱ(必1)	臨床薬理学(必1)	基礎看護技術論Ⅴ(必2)	老年看護援助論Ⅰ(必2)
	医療と哲学(選1)	医療と宗教(選1)	医療と社会(選1)	音楽(選1)	疾病論Ⅰ(循環器・呼吸器系)(必1)	基礎看護学実習Ⅰ(必1)	老年看護援助論Ⅱ(必1)
	医療と宗教(選1)	医療と社会(選1)	音楽(選1)	法学(選1)	疾病論Ⅱ(消化器・血液系)(必1)	基礎看護学実習Ⅱ(必2)	小児看護援助論(必2)
	医療と社会(選1)	音楽(選1)	法学(選1)	教育学(選1)	疾病論Ⅲ(運動・神経系)(必1)	小児看護援助論Ⅰ(必2)	小児看護援助論Ⅱ(必2)
	音楽(選1)	法学(選1)	教育学(選1)	ボラテンティア論(選1)	疾病論Ⅳ(内分泌・生殖器系・感覚器系)(必1)	母性看護学概論(必2)	母性看護援助論Ⅰ(必2)
	法学(選1)	教育学(選1)	ボラテンティア論(選1)		疾病論Ⅴ(内臓器系)	精神看護学概論(必2)	精神看護援助論Ⅰ(必2)
2 年次	英語Ⅳ(選1)	韓国語(選1)	中国語(選1)	韓国語(選1)	保健医療統計(必1)	基礎看護技術論Ⅵ(必2)	成人看護援助論Ⅱ(必2)
	韓国語(選1)	中国語(選1)	中国語(選1)	中国語(選1)	関係法規(必1)	基礎看護技術論Ⅶ(必2)	成人看護学実習(必5)
	中国語(選1)	中国語(選1)	中国語(選1)	中国語(選1)	社会福祉学(選1)	基礎看護学実習Ⅱ(必1)	看護研究ゼミナールⅠ(必1)
	中国語(選1)	中国語(選1)	中国語(選1)	中国語(選1)	心の健康科学(選1)	基礎看護学実習Ⅲ(必1)	看護研究ゼミナールⅡ(必1)
	中国語(選1)	中国語(選1)	中国語(選1)	中国語(選1)		基礎看護学実習Ⅳ(必2)	看護研究ゼミナールⅢ(必1)
	中国語(選1)	中国語(選1)	中国語(選1)	中国語(選1)		基礎看護学実習Ⅴ(必2)	看護研究ゼミナールⅣ(必1)
	中国語(選1)	中国語(選1)	中国語(選1)	中国語(選1)		基礎看護学実習Ⅵ(必2)	看護研究ゼミナールⅤ(必1)
	中国語(選1)	中国語(選1)	中国語(選1)	中国語(選1)		基礎看護学実習Ⅶ(必2)	看護研究ゼミナールⅥ(必1)
	中国語(選1)	中国語(選1)	中国語(選1)	中国語(選1)		基礎看護学実習Ⅷ(必2)	看護研究ゼミナールⅦ(必1)
	中国語(選1)	中国語(選1)	中国語(選1)	中国語(選1)		基礎看護学実習Ⅷ(必2)	看護研究ゼミナールⅧ(必1)
3 年次	健康教育論(必1)	チーム医療論(必1)	リハビリテーション概念(選1)	健康教育論(必1)	成人看護援助論Ⅱ(必2)	看護研究(必1)	看護研究(必1)
	チーム医療論(必1)	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	チーム医療論(必1)	成人看護学実習(必5)	看護研究ゼミナールⅠ(必1)	看護研究ゼミナールⅠ(必1)
	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	老年看護学実習(必3)	看護管理(必1)	看護管理(必1)
	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	小児看護援助論Ⅱ(必1)	臨床看護技術演習(選1)	臨床看護技術演習(必2)
	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	母性看護援助論Ⅱ(必1)	臨床看護技術演習(必2)	臨床看護技術演習(必2)
	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	精神看護援助論Ⅱ(必1)	臨床看護技術演習(必2)	臨床看護技術演習(必2)
	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	精神看護学実習(必2)	臨床看護技術演習(必2)	臨床看護技術演習(必2)
	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	地域・在宅看護援助論Ⅱ(必2)	臨床看護技術演習(必2)	臨床看護技術演習(必2)
	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	看護研究(必1)	看護研究(必1)	看護研究(必1)
	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	リハビリテーション概念(選1)	看護研究(必1)	看護研究(必1)	看護研究(必1)
4 年次	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	母子・小児看護学実習(必4)	統合実習(必3)	統合実習(必3)
	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	地域・在宅看護学実習(必2)	看護研究ゼミナールⅡ(必1)	看護研究ゼミナールⅡ(必1)
	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	看護倫理学(必1)	看護倫理学(選1)	看護倫理学(選1)
	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	看護倫理学(選1)	看護倫理学(選1)	看護倫理学(選1)
	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	国際看護学(選1)	国際看護学(選1)	国際看護学(選1)
	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	災害看護学Ⅱ(選1)	災害看護学Ⅱ(選1)	災害看護学Ⅱ(選1)
	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	エント・オブ・ライフケア(選1)	エント・オブ・ライフケア(選1)	エント・オブ・ライフケア(選1)
	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	看護ゼミナール(必1)	看護ゼミナール(必1)	看護ゼミナール(必1)
	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	看護ゼミナール(必1)	看護ゼミナール(必1)	看護ゼミナール(必1)
	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	家族論(選1)	看護ゼミナール(必1)	看護ゼミナール(必1)	看護ゼミナール(必1)



### 〈カリキュラム・ツリー 看護学科 (2025年度カリキュラム)〉

看護学科ディプロマポリシー (DP)	DPL 人権や多様な個性を尊重し、倫理的態度を持って共生社会の実現に寄与する能力	DP2 看護学に関する高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、看護の向上に寄与する能力	DP3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働する能力	DP4 科学的根拠に基づき、対象者に必要な看護を提供する能力	DP5 論理的思考をもって主体的に学修し、看護学を発展させる能力
看護学科カリキュラムポリシー (CP)	CPL 人権や多様な個性を尊重し、倫理的態度を持って共生社会の実現に寄与する能力を育成するために、「科学的思考の基礎」、「人間と生活及び社会の理解」、「語学」について学ぶ基礎教育科目を配置する	CP2 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働し、社会に貢献できる人材を育成するために、「社会と健康支援」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する	CP3 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な基礎的知識を修得するために、「健康と疾病」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する	CP4 高度で専門的な看護の実践能力の育成のため、「看護の統合」について学ぶ専門教育科目を配置する	CP5 将来の看護専門職業人としての自覚を持ち、豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う



